

# ちいき人権 WORLD

発行  
2022年度 冬号 (No.109)

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会  
委員長 土田 紀康  
連絡先 TEL 072-924-9853  
FAX 072-924-0134  
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会



みんなちがってええねんで♪  
人権週間缶バッジ



今年は八尾市立小学校の1年生に届けました。



ひゅーぺんの人権週間啓発缶バッジを製作しました。今年は八尾市立小学校の1年生の子どもたちに各学校を通じて配布しました。3校にご協力いただき、ひゅーぺんが直接子どもたちに届けることもできました。

## も く じ

- |           |  |            |                                       |
|-----------|--|------------|---------------------------------------|
| 2 P ..... | ひゅーまんフェスタ 2022 報告                            | 10 P ..... | 子どもの権利条約フォーラム 2022<br>in 沖繩 / 那覇に参加して |
| 4 P ..... | 第2回人権啓発セミナー<br>/みんなのしあわせを築く八尾市民集会            | 11 P ..... | 白根さんと考えよう！世界の人権 43                    |
| 5 P ..... | 人権週間での啓発活動                                   | 12 P ..... | 新共有する時間は…part53                       |
| 6 P ..... | ゆめパのじかん映画観賞会&監督講演会<br>/川崎市「子ども夢パーク」に行ってきました。 | 13 P ..... | うーさんのおすすめ本                            |
| 8 P ..... | 「すみれ」再移転のお知らせ<br>/せじ〜ん 74 開催しました。            | 14 P ..... | 気ままにおしゃべりシネマ52                        |
| 9 P ..... | やおプレイデイ 2022 によせて                            | 15 P ..... | 勝手にきやらふる 73                           |
|           |  | 16 P ..... | 歌詞紹介 / まちがいがしがし ②                     |



# ひゅーまん フェスタ 2022

11月18日(金) 19日(土)

プリズムホール(八尾市文化会館)



開催しました!

久しぶりのオープニングセレモニー  
輪になってテープカットをしました



巨大モザイクアートを作りました。

プリズムホールで二日間の開催は3年ぶりでした。天気もよく、たくさんの来場者が来られました。来場者は、赤ちゃんから高齢者まで多様だったように思います。人権は誰にでも必ず持っているものだと実感した二日間でした。ありがとうございました!

用和小学校と八尾小学校の  
子どもたちが遊びにきてくれました。



ひゅーペンがお出迎え♪



出かけてみよう!  
笑顔あふれるつどいの広場



かわたろうの  
子ども権利条約かるた  
毎年大盛り上がり!



こどもゆめパーク in やお



子ども権利条約  
どんぐり投票

# 21st Anniversary



3階  
展示室の様子

3年ぶりの  
プリズムホールでの  
ウリカラゲモイムでした



第41回 民族文化フェスティバル「ウリカラゲモイム」

ディスコンで  
楽しく遊ぼう！



盲導犬ウエンディも来たよ！！



ボッチャで遊ぼう！！



小枝でクラフトづくり



劇団どろっぷ：  
ネバーランドハイスクール 2022バージョン

へいわってすてきだね  
～教えてあなたが平和を感じる時～



平和を願おう☆  
みんなでミニ凧づくり



1階光の広場の様子

今年は5m！  
みんなで織りました！



みんなの心をつなごう！  
「さをり織り」体験



次回は2023年11月10日(金)、11日(土)に開催します。ぜひ遊びに来てください！

## 2022(令和4)年度 第2回 人権啓発セミナー

八尾市では、広く人権に関する情報を提供し、人権意識の高揚と差別のない明るいまちづくりを推進するため、人権尊重の社会づくりについて学ぶ場として、「人権啓発セミナー」を実施しています。

今回は下記のとおり、人権啓発活動東大阪地域ネットワーク協議会と共催で実施しました。

＜開催方法①：YouTube 限定配信(字幕付)＞

配信期間：2022(令和4)年

12月12日(月)～12月23日(金)

＜開催方法②：動画講演会＞

日時：2022(令和4)年12月13日(火)

午後2～4時

場所：八尾市文化会館プリズムホール4階 会議室1

テーマ：はじめてのLGBTQ ～性の多様性と人権～

講師：NPO法人東京レインボープライド

共同代表理事 杉山 文野 さん



講演会では杉山文野さんご自身の幼少期から現在に至るまでのライフヒストリーを中心に、「多様な性」、「LGBTQってなんだろう?」、「国内外におけるLGBTQの動向」などについてのお話をいただき、理解を深めることができるセミナーとなりました。「カミングアウトすることで居場所を失うことが怖くて人に言えない」ことが多く、周りの人たちが「ウェルカムですよ」ということを伝えていくことが大切であり、性的マイノリティについて肯定的な発言をしていく中で信頼関係が生まれ、「この人にだったらカミングアウトしても大丈夫かもしれない」と思っていただけのように、カミングアウトしやすい雰囲気づくりを心がける必要があります。マイ

ノリティに優しい社会は、マジョリティにも優しい社会になっていくように感じられます。

すべての人の人権が尊重される社会となるよう、できることからはじめてみませんか。

(参加者の声)

○「自己肯定感をあげることで、カミングアウトできた。」と話される杉山さんが、乗り越えてこられた生活の中での幾多の困難を知りました。私自身も、家族の話や自分の何気なく思った事を話しているだけで、聞いている人に不快な思いや悲しい気持ちにさせていたとは、思いもよらない事でした。大きいことは出来ませんが、『ウェルカミングアウト』の気持ちで日々の生活を送りたいと思いました。

○ご自分の経験、現状、LGBTQの課題について、とても分かりやすく伝えていただいて、ありがとうございました。人権課題は、マジョリティの課題であること。今いる場所を生きやすく変えていくために、小さな一歩を積み重ねて今までこられたこと。「目に見えないのは」アライの人も同じなので「ウェルカミングアウト」してほしいと言われたこと。いろいろ心に残った言葉がありましたが、まず知ることが第一歩と思いました。

## 第45回 みんなのしあわせを築く八尾市民集会

八尾市人権啓発推進協議会では、人権尊重の精神に基づき、全市民を対象にした啓発事業として、毎年、みんなのしあわせを築く八尾市民集会を開催しています。45回めとなる今回は、2022年が水平社宣言100周年であるため、同和問題(部落差別)をテーマに二部構成で実施いたしました。

日時：2022(令和4)年11月18日(金)

午後2～4時

場所：八尾市文化会館プリズムホール

地下2階 小ホール

【第一部】テーマ：皮の文化の担い手たち

講師：あとりえ西濱 代表 太田 恭治さん

【第二部】和楽器演奏集団 独楽さんによる演奏会

## 人権週間での啓発活動

第一部では、あとりえ西濱 代表の太田恭治さんにお越しいただき、上記テーマでご講演いただきました。皮文化についてお話しいただくなど、参加者の方に歴史を知ってもらうとともに、同和問題（部落差別）について理解してもらえる講演会となりました。

第二部では、和楽器演奏集団 独楽さんにお越しいただき、和太鼓だけではなく、津軽三味線・琴・篠笛・唄などを加えた独楽独自の世界観で繰り広げられた演奏に、参加者から大きな拍手があるなど、大賑わいの市民集会となりました。



(参加者アンケートより)

- ・皮と革のことをまったく知りませんでした。歴史のことがよくわかりました。話し方もわかりやすく、大変良かったです。
- ・なぜ差別されるようになったのか、その原因をわかりやすくお話しされ、仕事によって差別されることの理不尽さを理解できました。
- ・とても興味深い話でした。和太鼓演奏へつながったのもよかったですと思います。
- ・講演では人権と太鼓の関係が良くわかり大変良かったです。また、演奏も迫力があり良かったです。もっと差別や人権について考えなければならないと思った。

国際連合が1948年（昭和23年）12月10日に「世界人権宣言」を採択し、同宣言が採択された日を記念して、12月10日を「人権デー」と定められています。

日本では、法務省と全国人権擁護委員連合会により、世界人権宣言が採択された翌年に、12月10日を最終日とする12月4日から12月10日までの1週間を「人権週間」と定めています。これは、世界人権宣言の意義を訴えるとともに、人権尊重の思想を高め、各種の啓発活動を実施しようとするものです。今年で人権週間は74回めとなり、継続した啓発活動が全国的に行われています。

八尾市でも、市内の各出張所などにおいて、「人権は みんなもってる 宝もの」「12月4日から12月10日は人権週間です」と書かれたのぼりの掲出、市内行政関係施設において人権週間ポスターの掲示、リーフレットの配架、市役所公用車への「人権は みんなもってる 宝もの」と書かれたマグネットシート貼付け等、様々な啓発活動を行いました。

また、一人でも多くの市民の方に人権週間の周知を図るため、12月5日（月）午前8時から、近鉄八尾駅、河内山本駅、JR八尾駅、JR久宝寺駅の4駅で、ポケットティッシュ等の人権啓発グッズの配布による、街頭啓発を実施しました。大阪法務局東大阪支局、八尾市、世界人権宣言八尾市実行委員会だけでなく、八尾市企業人権協議会、八尾市人権啓発推進協議会、人権擁護委員八尾地区委員会と、日ごろから人権啓発活動に取り組んでおられる団体の方々と協力し行われました。当日は、約3500個の啓発グッズが配布され、一人でも多くの方に、人権週間



を知ってもらい、人権について改めて考えていただく機会になったのではないかと思います。

## 八尾人権協会 2022 年度じんけん映画上映会開催



2022年11月18日、ひゅーまんフェスタ内において八尾市人権協会主催、NPO法人KARALIN協力のもと映画「ゆめパのじかん」の上映会と重江良樹監督の講演会を開催しました。この映画は、川崎市子ども夢パーク、通称「ゆめパ」を舞台に、そこに通う子どもたちの姿を通して、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる場所とはどうあるべきかが映し出されたドキュメンタリー映画です。また子どもたちの姿を通じて、今の「普通」とされる

子育てや教育のあり方を根底から考え直させられる、大人にとって突きつけられる映画でした。

重江良樹監督は、この映画を通じて、ゆめパのような場所が、居場所や信頼で

きる他者を必要とする、すべての子どもたちにあるように、また社会全体でこのような場が拡がることを願っていると話されていました。



講演会の様子

## ●●●●川崎市「子ども夢パーク」に行ってきました。●●●●

「ゆめパのじかん」の撮影舞台となった川崎市「子ども夢パーク」に行ってきました。川崎市は、子ども条例を市でいち早く作られた自治体です。

子ども夢パークには、年間360箇所以上の視察が来られるほど、多くの自治体や、NPOが注目している子どもたちの居場所と遊び場になっています。広場は自分の責任で遊ぶルールがあり、手作りの遊具や、作りたいものを作れるように廃材が置いてあったり、ロープや泥水で遊べるプレーパーク、雨でも遊べるようにという子どもたちの意見から造られた全天候型広場、乳幼児から高校年齢の子どもたち、障がいのある子もいない子も、外国にルーツのある子も、学校に行っている子もいない子も、誰でも来ることができます。まちのものづくりの名人によるボランティアさんなど多くの市民さんも関わっておられます。元は工場だった跡地を市が買い上げ、建物づくりから子どもたちの声を聴き、建てられたそうです。最近子どもから「勉強する部屋も欲しい」と声上がり、市長さんが作ってくれたと拡張された部屋も見せてもらいました。





市のトップが変わっても、持続可能な施策のためには条例が必要だと実感した一例です。

夢パークオープン時より、学校に居場所を見つけられなかった学齢の子どもたちが通う「フリースペースえん」があります。夢パークの指定管理を出される時に、居場所の併設は切り離せない仕様だったそうです。川崎市のどの子も見捨てない丁寧な対応だと思います。まずみんながやって来ると、その日のお昼ごはんの内容を決め、みんなで買い物に行き、みんなで作って食べる。食べることで体と心にエネルギーを満たし、その過程の中でゆっくりと子どもたちの声を聴き、一人ひとりのペースで過ごせる配慮がされています。室内も見学させてもらいましたが、コロナで学校が休校になった始めの頃に作られた手作りの飛沫防止カーテンや、子どもたちの注意喚起ボードが設置されていました。ここでクラスターが起こって利用できなくなるより自分たちもやれることはしようという意気込みを感じました。多くの公営施設が閉鎖する中、夢パークとえんはオープンされていました。「自分たちは遠方で行けないけど、開いていることに元気をもらえた」「子どもと煮詰まりそうな家の中で、利用ができて本当に助かった」とたくさんの声が届いたそうです。

今、本当に子どもたちが思い切り遊ぶということに脆弱になっている気がします。喧嘩をしないように、怪我をしないように、トラブルに巻き込まれないように、幾重にも保護されています。大人は口出しせず見守ることの方がしんどいのです。でも子どもたちを囲ってしまおうと、怪我をしないでどうやって遊んだらいいか、ト

ラブルを解決するにはどうしたらいいか、考える機会を奪ってしまっていないか考えるべきです。大きな喧嘩になる前に小さな仲違いから仲直りを繰り返し、解決できる自信をつけて欲しいと願わずにいられません。このことが強く心に残り、時間はかかりますが、八尾の子どもたちにもこんな居場所があればと思いました。

最後に、この川崎市の権利条例を策定する中で、おとな委員会では知らされてなかった子ども委員会より次の言葉が発表されたそうです。

「まず、おとなが幸せにいてください。おとなが幸せじゃないのに、子どもだけ幸せになれません。おとなが幸せでないと、子どもに虐待とか体罰がおきます。条例に“子どもは愛情を持って育まれる”とありますが、まず、家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。子どもはそういう中で安心して生きることができます」(川崎市子ども権利条例策定子ども委員会)

この文章を読まれたその場の大人たちは涙があふれたそうです。聞くだけでも感動してしまいますが、子どもたちは本当によくわかっているなあと思います。誰かの幸せを願う時、まずは自分のことも大切にできる、そんな寄り添い合えるまちになってほしいと思いました。

### 「川崎市子どもの権利条例27条」

子どもには、ありのままの自分でいること、休息して自分を取り戻すこと、自由に遊び、若しくは活動すること又は安心して人間関係をつくり合うことができる場所（以下「居場所」という）が大切であることを考慮し、市は居場所の確保及びその存続に努めるものとする。



# 男女共同参画センター「すみれ」が再移転し、パワーアップしています！

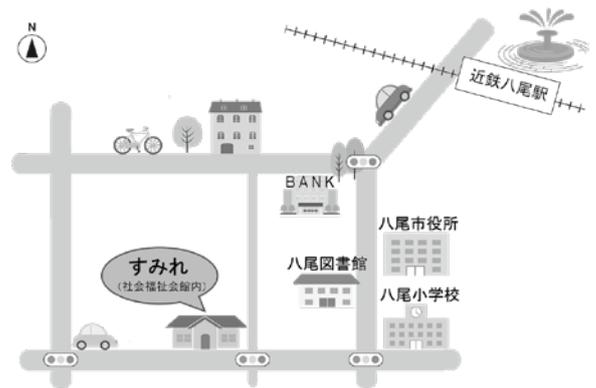
令和4年11月28日から「すみれ」が移転しています。 ●アクセスマップ

●移転先：〒581-0003 大阪府八尾市本町2-4-10

八尾市立社会福祉会館2階

●開所日時：平日 9時～17時（年末年始は除く）

●電話・FAX：072-923-4940



すみれ HP



すみれ LINE

すみれHPが新しくなり、  
すみれのLINE、Twitter  
も新しく開設しました。



10月からは、女性相談員が常駐し、無料のマンツーマンパソコン講座やセミナー・交流会、テーマに合わせておしゃべりできるすみれカフェを開催するなど、いつでもふらっと立ち寄れる場所としてパワーアップしています。予約不要で相談もできますので、お気軽にお越しください。

是非、お友だち登録をよろしくお願ひします。

## 2022年度 世界人権宣言74周年記念フェスティバル



土田紀康委員長の挨拶

# せじ〜ん74

★ 開催しました！



12月16日（金）、3年ぶりの対面開催でした。たくさんの方に来ていただき、賑わったオープニングでした。

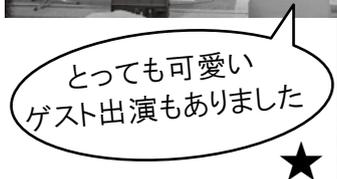


素敵なピアノ演奏でした

ウクレレの演奏



ドキドキのハンドベル



とっても可愛い  
ゲスト出演もありました



恒例の「世人の輪」



## やおプレイデイ 2022 によせて

NPO 法人 KARALIN 松田直美

私の 2022 年いちばんの泣き言は、やおプレイデイの中止を決断したことです。

11 月 20 日は、1989 年に子ども権利条約が制定された日で、「世界こどもの日」とされています。5 月 5 日のこどもの日が私たちには馴染んでいます。子ども（家庭）庁議論や、子ども基本法制定など、子どもの権利条約が注目されはじめ、11 月 20 日のキャンペーン行事なども増えています。KARALIN では、居場所づくりや、子どもの権利条約を啓発する関西のネットワークに、居場所の子どもと参加するなど、子どもの参加の権利保障についての取り組みをすすめてきました。そんな気運も盛り上がる中、社会では貧困対策や居場所づくり、子どもに関する環境整備などが徐々に進んでいます。法律制定に合わせて、子ども施策への予算も（倍増とはいきませんが）増えそうで、子どもが子ども時代を子どもらしく過ごせるように、現場から、そして有識者から「遊び」の重要性が指摘されています。

私自身は、子連れで活動できるボランティア活動から市民活動をスタートしていて、今でもそのグループに関わっています。子どもたちは孫の世代ですが、そんなみんなと久しぶりに焚火をしたり、少々雨でも穴掘って遊んだり、寒くってもダム作って水溜めたり、おとなも子どもも一緒になって「子どものやってみたい！」を応援する楽しさを体験しました。子育て真っ最中の時にも、1 人じゃできないことをみんなですると、普段と違う体験ができる！という経験を積み重ねてきました。その中で子どもたちはのびのびと遊んでいたなと思い返します。そんな体験を「子どもの遊び」を中心に置いて企てたいと思いました。

法人の事務所となる広場の引っ越しがあり、落ち着いた 2022 年、ひゅーまんフェスタの次の日やけど、日曜日と重なる 11 月 20 日にどうしてもやりたい！と早くから計画していました。引っ越し先の近くに久宝寺緑地の新エリア「あいあいひろば」がオープンし、開催の許可申請などを進めて協力もいただけることとなり、けっこうワクワクな企画になりました。公園をみんな育てていくような継続した取り組みにしたいと思っています。その報告がしたかったのですが、かなりの雨予報にぎりぎりまで悩みましたが、中止となりました。公園の方と、来年の 11 月の開催をお約束したのでまたお知らせできるはず！それまでもっともっと仲間を増やして、子どもたちが思う存分遊べるブースを子どもと一緒に計画したいと思います。



やお  
Play Day  
2022  
COCOWA YAO

11月20日 (SUN)  
10:00~14:00  
AT 久宝寺緑地  
あいあいひろば  
八尾市西久宝寺323

どんぐり  
みち  
チョコリ  
はっぱ  
その  
ダンボール  
ひろば  
せまにん  
ケンリ  
ふて  
あそび  
あそび  
あそび

2022 年度 11 月 20 日に開催予定だった、やおプレイデイのチラシ。チョークで地面に絵を描いたり、落ち葉やどんぐりで工作したり。子ども権利を知ってもらう遊びも用意していました。

協力者求む！

連絡先：NPO 法人 KARALIN

karalin@peace.zaq.jp

件名：やお playday



## 子どもの権利条約フォーラム in 沖縄 / 那覇に参加して



分科会で、「なんでやねん」すごろくの進行しているところ。  
『ゆめばのじかん』の重江監督も参加。

子どもの権利条約関西ネットワークには、子どもの時に参加していたが、サポーターをしている居場所で出会った八尾の小学生が参加するので、ユースメンバーとして活動を再開した。

2021年から2022年にかけての助成金事業で、「なんでやねん」すごろくのオンライン開催や出張開催を実施して、すごろくもバージョンアップした。たくさんの人や団体ですごろくを使ってもらい第3版で合計1000個つくった。一昨年に出張してすごろくをした阪南市の子どものグループに、今年も行き、子どもたちと「コミュニケーション」を考えるゲームをファシリテーションした。初めてだったので、緊張し顔も固まっていたが、参加した子の「もう一回!!」を聞いた時、嬉しかったし、笑顔で返せていたはずだ。自分にとっていい体験になったと思う。この経験をしたからこそ今回の沖縄フォーラム分科会での司会に手を挙げられた。

行きの飛行機で打ち合わせするはずが、「機内での私語は謹んで」というアナウンスに一同驚き、会場についてから短時間での最終確認だったが、子どもとユースだけで進行した。役割を分担し、参加した人たちも協力してくれて、自分でもやり遂げた感が持てた。参加者の中学生の「なんでやねん!」がたくさん出てきたので、おとなに知ってもらえてよかったと思う。

2日目の分科会では、プレイパークに参加し、火起こしやベーゴマを体験し楽しんだ。不登校

### 10代の居場所ちゃぽん

経験者の話と、こんな学校あったらいいなに参加し、学校のよくわからん制度や校則などの「学校あるある」で盛り上がった。

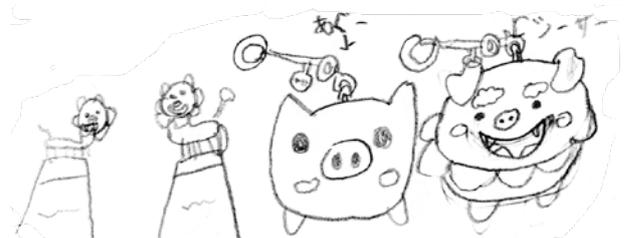
そして、大阪で事前に平和学習を行なって、戦争と平和について、また子どもの人権について考えてきた。フォーラム終了後、2泊延泊して学習してきた現地に向かった。対馬丸記念館、チビチリガマ、佐喜真美術館、ひめ

ゆりの塔、平和祈念資料館。「戦争」のイメージが一変した。集団自決それは自決ではなく他殺、虐殺だ。それほどまでに追い詰められてしまうのが戦争なんだと思った。戦争はある日突然始まるように見えて、実はじわじわとそんな社会になっていく。だから、「なんかおかしいぞ?」と気がつけるように、子どもの権利を子どももおとなにも伝えたいと思う。(松田竜風)



チビチリガマの前のかじゅまるの木

知った事は、戦争の事です。そんなことがあったんだなとかを知りました。びっくりしたのも戦争の事です。おぼえておきたい事は全部です!! 楽しい5日間でした!(小学生参加者)



# 白根さんと考えよう! 世界の人権43

国際NGO「CCPR センター」「ISSYO」所属 白根大輔

## ミャンマー 国連安全保障理事会決議

2022年12月21日、国連安全保障理事会がミャンマーの状況に関する決議を採択しました。決議は2021年2月のクーデター以降の状況に深い懸念を表明し、ミャンマー軍による民主化活動家の処刑を非難、恣意的に抑留された全ての人の今すぐの釈放及び全ての形態の暴力の中止を求めています。これまで安全保障理事会は拒否権を持つ常任理事国間の政治的な駆け引きから効果的な行動をとることはおろか、決議すら採択することができていませんでした。今回の決議は理事国による投票を経ての採択で、15カ国中12が賛成、インド、中国、ロシアの3カ国が棄権するという結果でした。

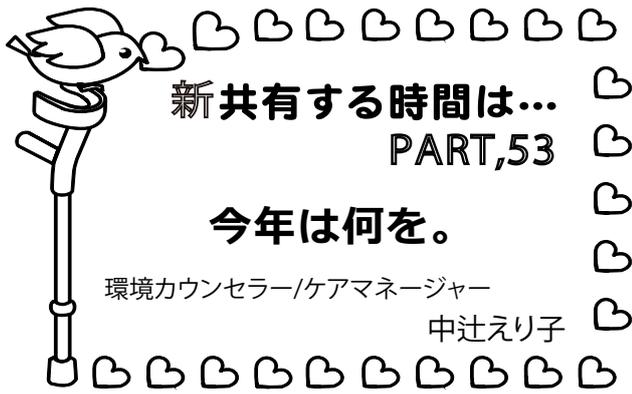
これまでのミャンマーの状況やそれにまつわる国際政治、国家間の駆け引きを考えると、安全保障理事会による決議という動きは国際社会からミャンマー軍に対する明らかなメッセージであり、決して意味のないものではありません。通常このような決議や動きに対して拒否権を行使したり、あからさまに反対をしてきた中国とロシアが棄権にまわったことからミャンマー軍が国際的に孤立してきていることの表れと見ていいでしょう。また安全保障理事会決議ということで、今後継続されていくミャンマーに関する国連諸機関の議論の中で頻繁に引用されたり、諸々の主張の根拠となり得るでしょう。

ただし、この決議自体が実際のミャンマーの状況に変化を及ぼす可能性は高くありません。

複数の要求が明確に記されているものの、イギリスによって作成された当初の草案から最終的な決議文が交渉される中で文章自体が多少骨抜きになってしまったことは否めませんし、要求の実現を確保するための強制・行使措置は設定されていません。また、ミャンマー軍に対する直接的な制裁措置が含まれているわけでもありません。さらに現在のミャンマー軍は、国連安全保障理事会決議といえども国際社会からのメッセージに聞く耳を持っているとは決して言えません。

そのため今回の国連安全保障理事会決議は、ミャンマーの状況・問題の近い解決に直接的に結びつくような効果はありません。むしろ今後の（長引くであろう）国際的・地域的な交渉や政治的駆け引きの中での小さくとも確実な一歩として見る方が良いでしょう。決議の中ではASEAN及びASEANにより2021年4月に採択された「5つの合意」について少なからず言及されています。国連事務総長または事務総長ミャンマー特使が2023年3月15日までに、ミャンマー軍によるASEAN「5つの合意」の履行について口頭で報告するようにも設定されています。同時期、ジュネーブでは国連人権理事会が開催され、ミャンマーの人権状況に関する特別報告者が報告を行います。

民間人に対する暴力・攻撃の中止や停戦、ミャンマー軍に対する武器禁輸、ミャンマー軍および軍関係者・関係企業との取引中止、人道支援の配給、ミャンマー軍の責任追及及び国際法廷での加害者処罰など、現場の人々が緊急に求めて続けていることに対して、国際社会は未だ答え切れていません。ウクライナ情勢を含め、国際社会の現状、国連の限界を考えるとどこまで何を期待していいのかわかりません。ミャンマー軍による残虐行為、人道に対する罪や戦争犯罪はいつまで「許容」され、どれだけの人が犠牲にならなければならないのでしょうか。



2023年1月。新型コロナウイルス感染拡大は第8波到来と言われる、新年を迎えました。移動規制が解かれたこの冬は、コロナ感染予防や対策をとりながらの人の動きが戻ってきています。TV画面には、久しぶりに故郷で再会する人々や旅行客の笑顔、初詣の賑わいが映し出されていました。感染者数は全国で20万人を超えています。

ワクチン接種は5回を数えるようになりましたが、新たなウイルス変異株の発生も伝えられています。医療機関では発熱外来の設置で通常の診察と分けた対応が取られています。感染確認のPCR検査・抗原検査で陽性(感染)が確認されると、保健所との連絡・連携で、入院や療養施設・ホテル療養等の対応が取られるようになりましたが、限りがあることで自宅での療養を余儀なくされることも多くあり、状況は今もひっ迫しています。

介護支援で担当している利用者(介護認定を受けた高齢者)の中にも、感染対応が可能な訪問介護事業所へ新たにサービスを依頼して、防護服を着用したヘルパーによるおむつ交換が行われた方がありました。感染と発熱(高熱)が確認されて入院された方、療養施設で過ごされた方、ご家族の感染や通所等利用施設での感染確認から、自宅待機で過ごされた方もありました。ベッドでの生活で外出機会がない方でも、感染したご家族からの感染となったり、ワクチン接種数日後に周囲の感染が認められたことから、検査を受けると症状はないのに陽性が確認された方もありました。

ディサービスやデイケア、ショートステイ等

事業所を訪問しての様子確認はコロナ感染が拡大した後、現在も行えていません。利用状況は報告書からの確認です。勤務先併設デイケアには数人の方が利用しているので、日常の様子を確認することができます。集団での体操やPT(理学療法士)による個別のリハビリを受けることで運動機能を落とさず活動に参加したり、介助を受けての入浴機会の確保ともなっています。認知症状があり、家族負担が多くなっている方でも、継続して利用していることで現状を維持している方がほとんどです。フロアでのリハビリの様子を見ることもあります。PTにより、利用者の身体状況や認知状況に合わせて個別訓練が行われています。「若い頃は運動が得意だった」他、過去の記憶なのに今も行っているように何度も話すHさんは、しりとりをしながら両手で大きなボールを投げるキャッチボール(デュアルトレーニング・複数のことを同時に行う)が上手です。先日、車椅子座位の利用者の方とキャッチボールをしているのを見かけました。PTにではなく、相手が車椅子に座っている方なので、受け取りやすいよう気遣いもしながらボール投げをしていました。認知症状があっても、継続して訓練が行われることで、残された機能の維持とその人らしさを目の当たりにすることが出来ます。自宅を訪問したMさんは、去年は体重が落ちて新たな病気が確認されていましたが、回復してこられました。認知症状の少しづつの進行はありますが、元気に草花づくりが続けられています。12月訪問時に一鉢預かりました。当施設玄関前に置かれたパンジー(白と紫の花色です)。今年は何か月の間、出入りの方の目を楽しませてくれるのでしょうか。(自分を振り返って。さて、今年は…。)



# ～さんの の おすすめ本\*

猫と暮らし始めた頃、猫の飼い方や猫についての本をあれこれ読んだ。その時、知って驚いたことがある。それは、犬の種類は、何百種類もあるけれど、猫は一種類ということ。

見た感じではいろんな種類がいるように思うけれど、どの猫も祖先の野生種と体型はほとんど変わらず遺伝子にも変化なく、どのネコも基本的なつくりは同じなんだって。

実は、ヒトも同じ。

生物学的な観点からみると現在のヒトは、ホモ・サピエンスだけ。

確かに地域によってヒトの容姿は多少異なるけど、人種っていう集団と集団の遺伝的な違いより、個人と個人の遺伝的な違いの方が遥かに大きい。

でも、ヒトの歴史の中では、人種っていう名前で肌の色や身体的相違で人間集団を特徴づけるとか、血であるとか、出自などが生まれながらにして違うものは決して変わらない、というような枠組みが信じられてきた。

そして人種によって体も能力も気質も生まれながらにして違っていて、集団間の間に優劣があると考えられた。しかもその人種に対する考え方は、単なる偏見だけでなく、政治戦略に使われたり、社会制度に組みこまれたりして歴史の中で都合よく使われてきた。

人種に振り回されない公正な社会に変えていくには、アンチレイシストが必要になってきます。

アンチレイシストが育つためには、そうなるように教えこまれてなくてはなりません。

その最初の一步の本が『アンチレイシスト・ベビー』です。

その方法は9つ。

- 1.異なる肌の色のすべてに気づいて受け入れること
- 2.自分の言葉で人種について語ること
- 3.人ではなく政策に問題があることを指し示すこと
- 4.「ほかの人とちがっていても、まちがっていないよ!」と大きく声をあげること
- 5.わたしたちの異なるところ、すべてを祝福すること
- 6.文化のかべをたたきこわすこと
- 7.自分がレイシストになったときは、それを認めること
- 8.アンチレイシストになるようにすること
- 9.いつか人種差別に打ち勝つと信じること

ひとつひとつに描かれている絵がとても力強く、勇気の出る絵本です。

後ろに解説もついています。

日本にも少しずつ、少しずつアンチレイシスト・ベビーが増えていきますように。



アンチレイシスト・ベビー 合同出版  
イブラム・X・ケンディ著  
アシュリー・ルカシェフスキー絵



※「じゃりちえ日記」はお休みしました。

おまにおしかべり



シネマ vol.52



星の子  
(2020年 日本)  
監督/大森立嗣  
主演/芦田愛菜

**E:**「宗教2世」の話を聞くと気になってたこの映画を思い出した。芦田愛菜主演で原作が今村夏子、新興宗教の熱心な信者を親に持つ中学生の話だったから。

**T:**昨夏の安部さんの事件で大きく取り上げられるようになったからね。宗教と人権は対立するものじゃないという人もいたけど、こどもの人権は守られているのかすごく気になる。

**E:**映画はちひろ（芦田愛菜）が生まれたところから。病弱で湿疹もひどくて泣いてばかり。そんな時、父の同僚らしき人が勧めてくれたのが「金星のめぐみ」。宇宙のパワーを秘めるという水のおかげで炎症はみるみる改善、風邪もひかなくなって、家族みんなが救われたというサクセスストーリーから始まった。

**T:**体調を崩した時に聖書を勧められて購入したことがあって、今は手に取ることもないけど、不安なとき何かにすがりたくなるのはわかる。こどものためになんとかしたいと思うよね。でも会の活動が生活の中心となっていく中、ちひろの姉は家出。自分は認めたくないけど、まわりから親を批判されるのも辛い。そんな姉の複雑な思いは小学生のちひろには理解できなかったらうね。

**E:**中学3年になったちひろは恋もするしパワーを弱めるからと家では飲まないコーヒーをこっそり飲んだり、姉を恋しく思ったり、ちょっとずつ変わってきた。でも「金星のみず」はいつ

もちひろのそばにあって両親と集会に集い、信じたことだけ信じて、あとは「ウワサでしょ」と追求しない。友達とのやりとりに少し迷いは感じるけど。

**T:**俳優陣がそれぞれ存在感のある人ばかりで、こんなふうに言われたら信じてしまうとか、頭ごなしの反対や偏見はありがちとか気持ちがざわざわした。傷ついたらちひろの心情が一瞬アニメーションになったのは印象的で切なかった。

**E:**宿泊研修に参加したとき、親子別行動でなかなか会えなくてどんどん不安になるちひろ。これは試されてたね。会えたときの安堵感に惑わされなくて、と思いつつ自分で選ぶことの難しさをあらためて感じたのもたしか。生まれてからずっと信じてきたもの、でも今は苦しい。苦しかったら離れたらいい、と言われるけどか家族と離れられないからなお苦しい。

**T:**宗教については介入にしづらいところがあるし、こどもたちの存在は見えにくい。発信しても理解されなくてさらに傷つくことも多い。こどもの社会は狭くて孤立しがちなこと、こどもにも選択の自由があることをおとなは知っておいてほしい。

**E:**ん？このエンドロール！？と心配だけど、気にかけてくれてる伯父家族、母になったという姉の存在はきっと大きいと思う。ちひろが自分の幸せに向かって進めますように。



# 勝手にきゃりる

74

## < 一人間の無力 >

池谷 麻幸

やはり、医療福祉が未来にいかによっても、どうしても働けない障害者は、一定にいるのではないか。その人達の人生は無意味なのだろうか？

人が世の中で働くという事は、その人の個性を無くしてしまうという事なのだろうか？

もちろん仕事は選べないが、私には、障害者総合支援法は、障害者の障害特性と個性を無視して、既成の社会構造に矯正し分断しているように見える。そこに人間の尊厳は保証されるのか？

つまり、障害者のモノ化である。この感覚は、昔の左翼的な発想かも知れない。私の言っていることは理念或いは精神論であって、現実には、支援法も評価出来るところはあり、色々工夫対応は可能だろう。

真実 単純に、私は働きたくないし、また、働けない。

分断というのは、障害者一般を働ける者と働けない者へと差別化し、障害者としての連帯を壊している、ように見える、という意味である。

しかし劣等者は淘汰されていくのだろう。強い者が勝つのが正常である。

私には生きる意味があるか？生きるべきなのか？生きる目的、理由があるのか？生きるべき使命があるか？使命に従って生きているか？

優生思想によれば、私は死ぬしかない。

私はおかしいのだろうか？間違っているのだろうか？私は勘違いしているのだろうか？

ところで、私は今現実には、死病にかかっているかもしれない（悪性腫瘍の強い疑いがある）。

2022年11月14日現在、私の運命は超越者の手中にある。私は落伍者である。

# ♪ 歌詞紹介 ♪

映画「ゆめパのじかん」挿入歌  
**アーユーレディ**  
 歌：児玉奈央

tictactictac 何もしなくても時間は  
 ひとりでに過ぎてゆく  
 dingdang はじまりの鐘が鳴ってる  
 きこえてはいるんでしょ

そらに向かって報告しよう  
 できなかったことが  
 どんなささいなことだっていい  
 できるようになったよって

とびのってごらんよ そこは奇跡さ  
 最初は少しこわいかもしれないけど  
 何をえらんで 何をやめるの  
 その先のまだ見ぬ景色 見るために

tectectectec そのまま歩きすすめよう  
 ひざについた砂をはらって  
 swinging swinging ところを澄ませて聞いてみよう  
 悲しさに慣れてしまわないで

そらに向かって報告しよう  
 できなかったことが  
 どんなささいなことだっていい  
 できるようになったよって

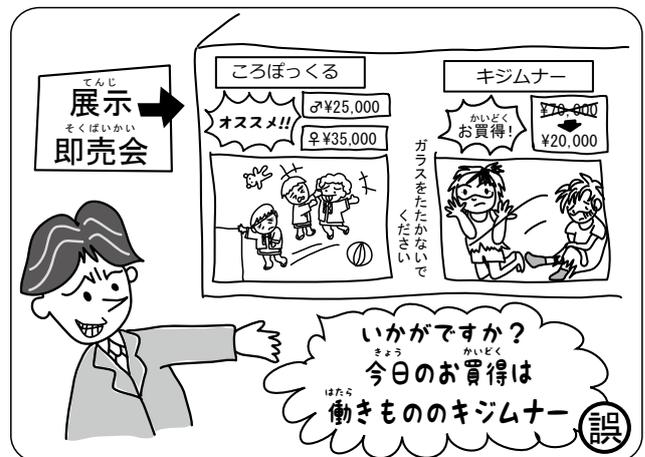
とびのってごらんよ そこは奇跡さ  
 最初は少しこわいかもしれないけど  
 何をえらんで 何をやめるの  
 その先のまだ見ぬ景色 見るために

準備ができたよ アーユーレディ  
 お祝いしようよ アーユーレディ  
 準備ができたよ アーユーレディ



世人やお的世界人権宣言第4条。「だれも 奴隷になりません」上の絵が正解。下の絵は、まちがいさがし5つあります。探して事務局まで送ってくださいネ。

正解者には、世界人権宣言八尾市実行委員会オリジナル缶バッチプレゼント！➡



わたしたちは、だれも 無理やり 辛くて  
 いやな仕事を させられることはないのです。  
 人をもののように あつかって  
 働かせたり 売り買いすることは、  
 絶対にあってはなりません。



■世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）は、人権尊重のまちづくり、ネットワークづくり、市民活動支援を目的に活動しています。活動に参加して下さる、また支援して下さる会員を募集しています。詳しくは右記へご連絡下さい。

○団体会員：年額1口 5000円  
 ○個人会員：年額 2000円

〒581-0004 八尾市東本町3-9-19-312 八尾市人権協会  
 世界人権宣言八尾市実行委員会 TEL072-924-9853

E-メール oyaoya@oyaoya.org